

# 長渕出水 (ながぶちですい)

## 位置図



長渕出水



長渕出水

財田川近辺には数多くの出水があり、三豊市豊中町本山にある寺家出水群は、江戸時代中期に進められた新田開発に伴って築造・整備されてきたものです。

その中の一つでもある「長渕出水」は、八代将軍吉宗の時代、伊予松山藩主が参勤交代の折、本山地区の干ばつを見て丸亀藩主に進言した結果、丸亀藩御用として三野郡挙げて一年有余の歳月をかけた大工事となったという言い伝えがあります。

当時、長さ820m、幅は広いところで40mに及んだといい、この長大な形状が「長渕出水」の名前の由来であると云われています。また、かんがい面積は、「長渕百町」と言われ、水が豊富であったようです。

出水路は深く、水は冷たく、両岸の竹が覆い被さり、水路の清掃は困難を極めました。水利総代の強力な統率力と指導により行われ、守られてきました。

現在は、高松自動車道建設時に上流部が埋め立てられ、両岸の竹藪も取り除かれ、幅も狭められています。地域の人たちに守られ、野鳥が飛来するなどの自然環境が往時を偲ばせています。

参考文献：「豊中町の池と出水」 発行：豊中町水利組合



出水上流部



出水下流部